

(6) 生産性向上と後継者育成によるナシ産地の発展

【要 約】

管内地域におけるナシ生産の振興を目的として、部会、J A、普及指導センターが連携し、優良品種の導入推進および今後産地の中心を担う青年部の活動支援を行った。その結果、部会において優良品種の生産が拡大し、生産性の向上につながった。また、青年部員のナシ生産に関する知識と技術の向上に寄与した。

【目 的】

当管内はJ Aふくおか八女なし部会を中心とした県内屈指のナシ産地であり、福岡県におけるナシ生産量の約半数を占めている。当部会では主要品種「幸水」、「豊水」を中心とした早期リレー生産を展開している。しかし、近年は温暖化等の影響により、関東地域をはじめ他産地の生産時期が前進化し、当地域の強みである早期出荷の優位性が脅かされている。今後このような状況を打開するには、高品質果実の安定生産に加え、他産地との差別化、リレー生産のさらなる充実、ならびに産地を担っていく後継者の育成が必要である。

1 活動対象の概況

J Aふくおか八女なし部会【令和2年度実績】

部会員:92名(青年部:12名)、栽培面積:92ha、生産量:1,955t、販売額:9.2億円

2 活動の内容等

(1) 優良品種の導入支援

部会内組織である品種研究会を通じて、「甘太」、「王秋」、県育成品種「玉水」に関する情報を積極的に提供した。また、各品種の生育特性の把握および課題解決に向けた栽培講習会および展示試験を実施した(写真1、写真2)。



写真1 現地試験園地における県育成品種「玉水」の生育の状況



写真2 「王秋」の現地試験の実施(吸水性ポリマーによる生理障害対策)

(2) 青年部の活動支援

栽培知識と技術向上を目的とした青年部定例会及び生育調査、病虫害発生予察情報の提供を通じて積極的に支援した。また、他産地の優良事例を学ぶため、先進地視察研修会を実施した（写真3）。さらに、青年部員個々の課題を抽出し、課題解決に向けた資料を示した個別指導カルテを作成した（図1）。



写真3 視察研修会の様子（徳島県にて）

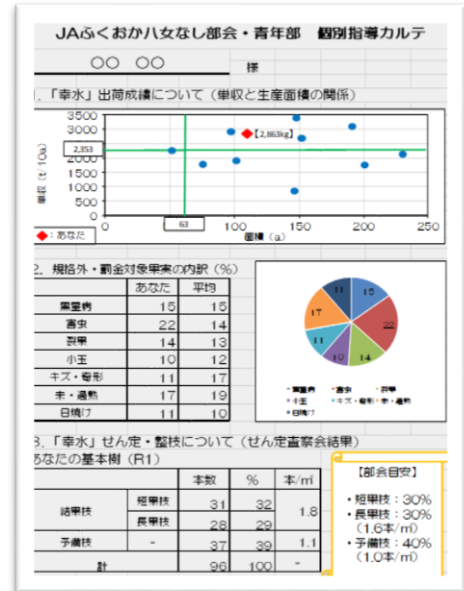


図1 個別指導カルテ

3 活動の成果

- (1) 優良品種「甘太」の導入者数が30名、「王秋」の導入者数が23名（令和2年度実績）と増加し、リレー生産のための生産拡大品種として位置付けられた。
- (2) 青年部で実施した調査結果や情報を部会に随時提供し、部会全体の病虫害防除指導に反映させた。「幸水」は年度によって、天候不順等の影響による結実不良および小玉傾向がみられたものの、青年部の平均単収は2.0~2.4t/10a（平成30年~令和2年度実績）を確保できた。

4 今後の見通し又は課題

優良品種の導入は一定程度進んだが、各品種の抱える課題の解決に向けた展示試験は生理障害等において更なる改善が必要な状況である。そのため、今後も関係機関と連携して試験を継続・拡大し、迅速な課題解決を図る。また、県育成品種「玉水」は産地に導入されて間もないため、生育特性および栽培技術に関する情報提供を行い、早期普及につなげる。

青年部の次年度部員数は13名に増加するため、今後も積極的な活動支援が必要である。若手生産者ならではの活発なアイデアを活動に取り入れることで、栽培知識と技術のさらなる向上およびナシ産地の発展に向けた担い手を育成する。